

T3章 絶対時と相対時

(絶対テンスと相対テンス)

絶対時と相対時について考えます。

T3.1 2つの基準点……発話時点・主文事象生起時点 (44)

発話時点のほかに、もう1つ重要な基準点があります。

T3.2 絶対時と相対時（絶対テンスと相対テンス） (46)

発話時点が絶対時の、主文事象生起時点が相対時の基準点です。

T3.3 従属節事象を相対時のみで捉える (48)

従属節事象は相対時と絶対時で捉えられます。ここでは相対時で。

T3.4 従属節事象を絶対時でも捉える (51)

ここでは従属節事象を相対時だけでなく、絶対時でも捉えます。

T3.5 絶対・相対時相表 (54)

従属節(絶対時・相対時)と主文(絶対時)の組合せの一覧表です。

この表が分かれば、絶対時、相対時がよく分かるようになります。

T3.6 まえ・あと・とき (56)

それぞれの特徴について説明します。

T3.7 絶対時？ 相対時？ (60)

日本語では相対時が優勢ですが、絶対時で解釈する文もあります。

T3.1 2つの基準点

発話時点と主文事象生起時点

A9章

2つの基準点 …… 発話時点・主文事象生起時点

「電車に乗る人は切符を買った。」

という文について考えます。この文は(a)(b)の2つの部分に分けることができます。

(a) 電車に乗る人 …… [従属節]+実詞(名詞)

(b) 人は切符を買った …… 主文

※「主文」の動詞は文を終止する活用形にあります。「節」は文の一部です。

(a)では「電車に乗る」が「人」を修飾する従属節になっていて、(b)は被修飾語「人」を含む主文になっています。ここには「電車に乗る」と「切符を買う」という2つの事象がありますが、一般的に「乗る」前に「買う」が生起したと解釈できます。

過去

現在

未来

従属節→

電車に乗る

主文→

切符を買う

▲
発話時点

図T3-1 「電車に乗る」と「切符を買う」の時間関係

★ここでは「乗る」も「買う」と同様、過去の事象であると想定しています。

(1) 絶対時表示……発話時点が基準点

★両事象とも発話時点を時間表現の基準点として表現すれば

「[電車に乗った]人は切符を買った。」

のような文になり、次のような図示になります。

過去

現在

未来

従属節→

乗

主文→

買

▲
発話時点

図T3-2 発話時点が基準点（絶対時）

★ところが、冒頭文は過去のことなのに「乗った」ではなく

「[電車に乗る]人は切符を買った。」

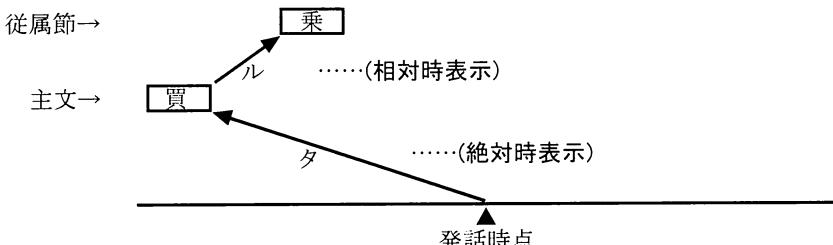
のように「乗る」になっています。これはなぜでしょうか。

(2) 相対時表示……(従属節で) 主文事象生起時点が基準点

★日本語では従属節の基準点は発話時点だけでなく、主文事象の生起時点になることもあります。

★それで、主文事象「買う」の生起時点を基準点としてみると、こうなります。

過去 現在 未来



図T3-3 主文事象の生起時点が基準点（相対時）

★つまり、矢印は右上を向きます。これは「乗」が「乗る」のように、タではなく、ルをとることを意味しています(p.4)。

「電車に乗る人は……」

★ということで、冒頭文の「乗る」は相対時表現になっているわけです。

以上に見るように、日本語の時の表示には、「発話時点」を基準点とする「絶対時表示」と、「主文事象生起時」を基準点とする「相対時表示」があります。

表T3-1 時の表示法

| | 基準点 | 従属節 | 主文 | 別称 |
|-----------|----------|-----|----|---------|
| (1) 絶対時表示 | 発話時点 | (○) | ○ | 絶対テンス表示 |
| (2) 相対時表示 | 主文事象生起時点 | ○ | — | 相対テンス表示 |

主文は絶対時表示しかできません。従属節は両方できますが、相対時表示のほうがより自然に感じられる場合が多いです。

問T3-1 「電車に乗った人は切符を買った」が電車内で買った意味になるのはなぜ？

問T3-2 「電車に乗った人は切符を買った」は乗る前に買った意味にもなりますか。

問T3-3 絶対時表示か相対時表示かが問題になるのは、従属節ですか主文ですか。

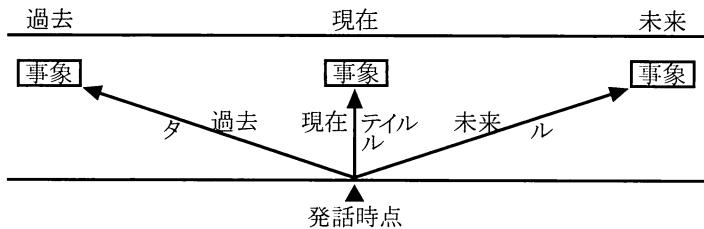
T3.2 絶対時と相対時

絶対テンスと相対テンス

A9章

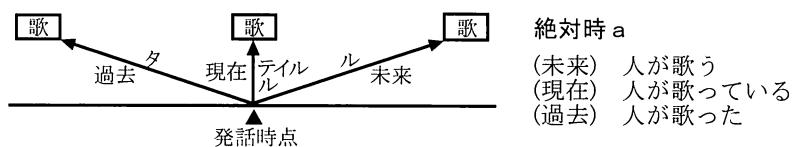
絶対時

- (1) 「絶対時」とは発話時点を基準点とする時間表示法です。
- (2) 主文の事象の時を表します(a)。従属節の事象の時も表せます(b)。
- (3) 未来(ル)・現在(ティル/ル)・過去(タ)の表し方があります。



〔従属節〕 主文
「[山に登る]人が歌う。」という文を例にします。

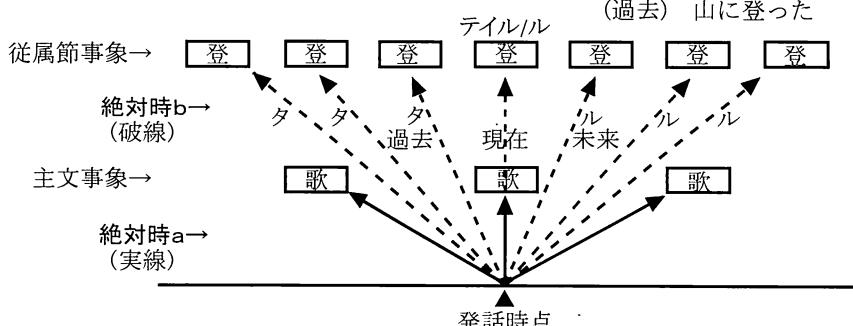
絶対時a ……主文事象(人が歌う)を捉える



絶対時b ……従属節事象(山に登る)を捉える

絶対時 b

(未来) 山に登る
(現在) 山に登っている
(過去) 山に登った

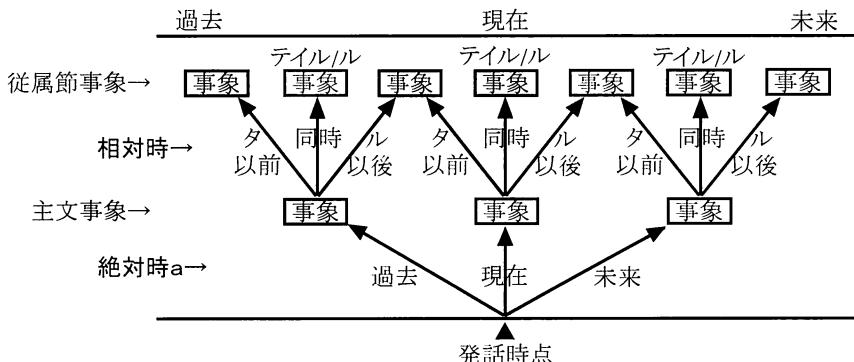


図T3-6 従属節事象を捉える絶対時b (破線で示す)

問T3-4 「絶対時a」と「絶対時b」の違いは何ですか。

相対時

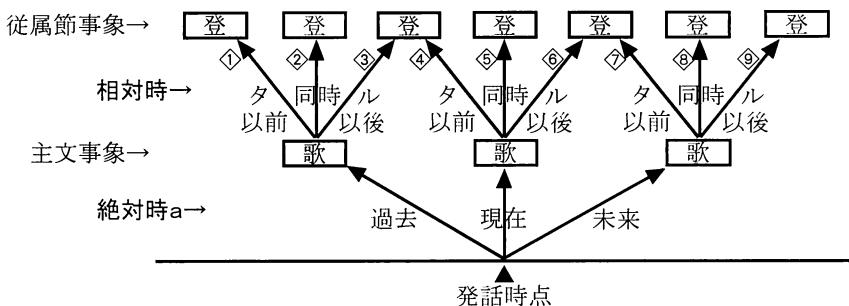
- (1) 「相対時」とは主文事象生起時点を基準点とする時間表示法です。
- (2) 従属節の事象の時を表します。主文の事象の時は表しません。
- (3) 未来・現在・過去の代わりに、以後(ル)・同時(テイル/ル)・以前(タ)を使います。未来の中に現在や過去はありませんから。



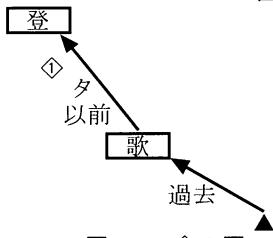
図T3-7 絶対時と相対時(絶対テンスと相対テンス)

[従属節] 主文
[山に登る]人が歌う。

この例が①～⑨でどのような文になるかを見ます。



図T3-8 [山に登る]人が歌う……相対時と絶対時aで表示



図T3-9 ①の図

- ① 以前・過去 [山に登った]人が歌った。
- ② 同時・過去 [山に登っている]人が歌った。
- ③ 以後・過去 [山に登る]人が歌った。
- ④ 以前・現在 [山に登った]人が歌っている。
- ⑤ 同時・現在 [山に登っている]人が歌っている。
- ⑥ 以後・現在 [山に登る]人が歌っている。
- ⑦ 以前・未来 [山に登った]人が歌う。
- ⑧ 同時・未来 [山に登っている]人が歌う。
- ⑨ 以後・未来 [山に登る]人が歌う。

次のページから①～⑨をひとつずつ見ていきます。

T3.3 従属節事象を相対時のみで捉える

A9章

従属節の事象は [1] で記号化

主文の事象は [2] で記号化

(1) 主文の絶対時を過去に固定

| 表現時組合せ | 例文 | 時間図 | 時間図の記号化図 |
|--------|-----------------------|---------------------------------------|---------------|
| 以前・過去 | 山に登った人が歌った 以前 過去 | 時間図 過去 現在 登 歌 発話時点 | 時間図の記号化図 ◇ |
| 同時・過去 | 山に登っている人が歌った 同時 過去 | 時間図 過去 現在 登 同時 歌 発話時点 | 時間図の記号化図 ◇ |
| 以後・過去 | 山に登る人が歌った 以後 過去 | 時間図 過去 現在 未来 登 登 登 歌 発話時点 | 時間図の記号化図 ◇ |

問T3-5 図T3-12 に3つの「登」がありますが、違いを1つずつ説明してください。

(2) 主文の絶対時を現在に固定

| 表現時組合せ | 例文 | 時間図 | 時間図の記号化図 |
|--------|--------------------------|-----|----------|
| 以前・現在 | 1 山に登った人が歌っている 2 現在 | | |
| 同時・現在 | 1 山に登っている人が歌っている 2 現在 | | |
| 以後・現在 | 1 山に登る人が歌っている 2 現在 | | |

問T3-6 「彼の作った牛丼を食べている。」を図示してください。

問T3-7 「列に並んだ人に整理券を渡します。」を図示してください。

問T3-8 「電車に乗る人が切符を買う。」を図示してください。

(3) 主文の絶対時を**未来**に固定

| 表現時組合せ | 例文 | 時間図 | 時間図の記号化図 |
|--------------|------------------------------|---|----------|
| <u>以前・未来</u> | [1] 山に登った人が歌う [2] 以前 未来 | 過去 現在 未来 登 登 登 歌 ↓ ↓ ↓ → 以前 未来 発話時点 | ◇ |
| <u>同時・未来</u> | [1] 山に登っている人が歌う [2] 同時 未来 | 現在 未来 登 歌 ↑ ← 同時 未来 発話時点 | ◇ |
| <u>以後・未来</u> | [1] 山に登る人が歌う [2] 以後 未来 | 現在 未来 歌 登 → ↑ 以後 未来 発話時点 | ◇ |

以上は従属節事象を相対時で捉えたものです。次ページから絶対時でも捉えます。従属節事象は相対時表現と絶対時表現とで、形が同じになることがあります。その場合はどちらで表現したか区別できません。なお、主文事象は常に絶対時で捉えます。

T3.4 従属節事象を絶対時でも捉える

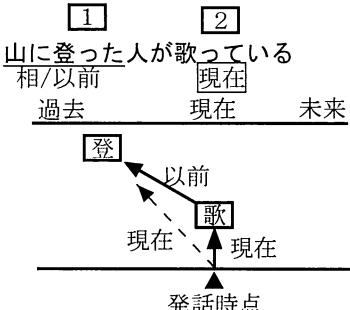
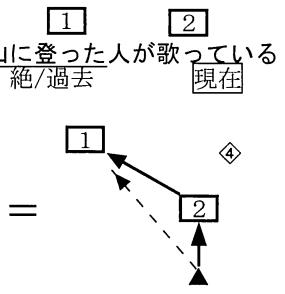
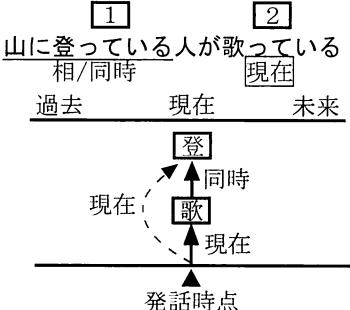
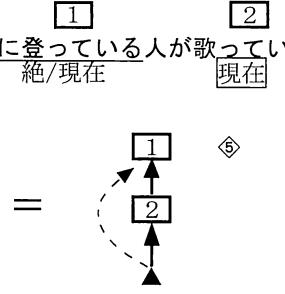
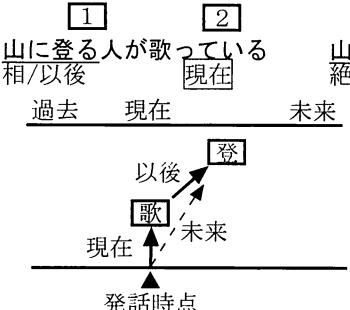
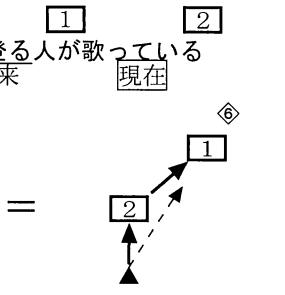
従属節の事象は [1] で記号化

主文の事象は [2] で記号化

(1) 主文の絶対時を過去に固定 従属節の事象を捉える絶対時は → で表示

| 表現時組合せ | 例文 | 時間図 | 時間図の記号化図 |
|--------------|---------------------------------|--|----------|
| 相対時 以前・過去 | [1] 山に登った人が歌った [2] 相/以前 過去 | 山に登った人が歌った 絶/過去 過去 | |
| 絶対時 過去・過去 | [1] 登 [2] 過去 | 發話時点 | |
| ↓ 同じ表現 | ◇ | 図T3-19 相/以前・過去, 絶/過去・過去 | |
| 相対時 同時・過去 | [1] 山に登っている人が歌った [2] 相/同時 過去 | 山に登った人が歌った 絶/過去 過去 | |
| 絶対時 過去・過去 | [1] 登 [2] 過去 | 發話時点 | |
| ↓ 異なる表現 | ◇ | 図T3-20 相/同時・過去, 絶/過去・過去 | |
| 相対時 以後・過去 | [1] 山に登った人が歌った [2] 絶/過去・過去 | 山に登った人が歌った | |
| 絶対時 過去・過去 | [1] 登 [2] 絶/現在・過去 | 山に登っている人が歌った | |
| 現在・過去 | [1] 現在 | 山に登る人が歌った | |
| 未来・過去 | [1] 未来 | 山に登った人が歌った | |
| ↓ 同じ表現 | ◇ | 図T3-21 相/以後・過去, 絶/過去・過去, 絶/現在・過去, 絶/未来・過去 | |
| 異なる表現 | ◇ | | |

(2) 主文の絶対時を現在に固定

| 表現時組合せ | 例文 | 時間図 | 時間図の記号化図 |
|--|--|--|---|
| 相対時 以前・現在 絶対時 過去・現在 ↓ 同じ表現 ④ | [1] 山に登った人が歌っている 相/以前 現在 [2] 過去 現在 未来 |  |  図T3-22 相/以前・現在, 絶/過去・現在 |
| 相対時 同時・現在 絶対時 現在・現在 ↓ 同じ表現 ⑤ | [1] 山に登っている人が歌っている 相/同時 現在 [2] 過去 現在 未来 |  |  図T3-23 相/同時・現在, 絶/現在・現在 |
| 相対時 以後・現在 絶対時 未来・現在 ↓ 同じ表現 ⑥ | [1] 山に登る人が歌っている 相/以後 現在 [2] 過去 現在 未来 |  |  図T3-24 相/以後・現在, 絶/未来・現在 |

問T3-9 「走っている選手に声援を送った。」を図示してください。

問T3-10 「走っていた選手に声援を送った。」を図示してください。

問T3-11 「あの飛んでいるドローンは彼が操縦している。」を図示してください。

(3) 主文の絶対時を**未来**に固定

| 表現時組合せ | 例文 | 時間図 | 時間図の記号化図 |
|----------------------|---|--|--|
| 相対時 以前・ 未来 | 1 山に登った人が歌う <small>相/以前</small> | 絶/過去・ 未来 | 山に登った人が歌う |
| 絶対時 過去・ 未来 | 2 山に登っている人が歌う <small>絶/現在・未来</small> | 絶/現在・ 未来 | 山に登っている人が歌う |
| 現在・ 未来 | | 絶/未来・ 未来 | 山に登る人が歌う |
| 未来・ 未来 | | | |
| ↓ 同じ表現 | | | |
| 異なる表現 | | | |
| ⑦ | | | |
| | | | 図T3-25 |
| 相対時 同時・ 未来 | 1 山に登っている人が歌う <small>相/同時</small> | 2 山に登る人が歌う <small>絶/未来</small> | 山に登っている人が歌う |
| 絶対時 未来・ 未来 | | 絶/未来・ 未来 | 山に登る人が歌う |
| ↓ 異なる表現 | | | |
| ⑧ | | | |
| | | | 図T3-26 相/同時・ 未来 , 絶/未来・ 未来 |
| 相対時 以後・ 未来 | 1 山に登る人が歌う <small>相/以後</small> | 2 山に登る人が歌う <small>絶/未来</small> | 山に登る人が歌う |
| 絶対時 未来・ 未来 | | 絶/未来・ 未来 | 山に登る人が歌う |
| ↓ 同じ表現 | | | |
| ⑨ | | | |
| | | | 図T3-27 相/以後・ 未来 , 絶/未来・ 未来 |

以上の相対時と絶対時のあり方のすべてを次ページで一覧表にします。

問T3-12 「車を運転する人にこの地図を渡す。」を図示してください。

T3.5 絶対・相対時相表

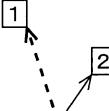
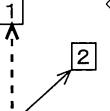
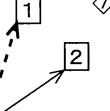
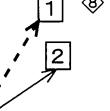
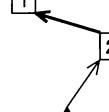
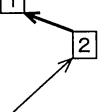
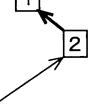
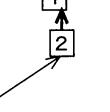
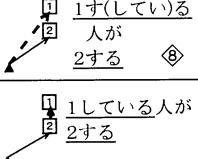
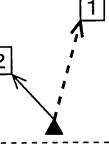
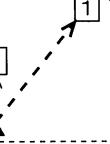
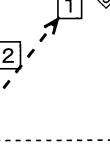
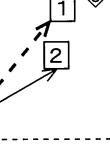
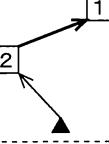
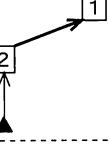
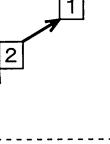
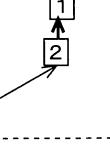
表T3-2 従属節事象①と主文事象②の位置と表示時

| | | ①・② の両方が過去 | | 一方が現在 | ①・② が現在 |
|-------------------|------------------------------|------------|----------------------|-------|---------|
| | | A | B | C | D |
| ① が先 に生起 | 絶対時 ・1Z | | | | |
| | 相対時 ・1S | | | | |
| ① ・ ② 同時 | 絶対 ・ Z 相対 ・ S | | Z: 絶対時の略 S: 相対時の略 | | |
| ② が先 に生起 | 絶対時 ・2Z | | | | |
| | 相対時 ・2S | | | | |

※未来Hの3つの絶対時で、進行中の局面を重視して「1している人」(未来・進行中)

T3章 絶対時と相対時

・◇[F1Z, F1S]の組など、太枠部分の10組は絶対時、相対時のいずれで表現したかが分かります。他の組では絶対時、相対時の表現が同じになっています。

| [1]・[2]が未来・過去 | 一方が現在 | [1]・[2]の両方が未来 | |
|---|---|---|---|
| E | F | G | H |
|  |  |  |  |
| 1した人が <u>2する</u> | 1している人が <u>2する</u> | 1する人が <u>2する</u> | 1す(してい)る人が <u>2する</u> |
|  |  |  |  |
| 1した人が <u>2する</u> | 1した人が <u>2する</u> | 1した人が <u>2する</u> | 1している人が <u>2する</u> |
| | | |  |
|  |  |  |  |
| 1する人が <u>2した</u> | 1する人が <u>2している</u> | 1する人が <u>2する</u> | 1す(してい)る人が <u>2する</u> |
|  |  |  |  |
| 1する人が <u>2した</u> | 1する人が <u>2している</u> | 1する人が <u>2する</u> | 1してい)る人が <u>2する</u> |

と表現した場合、絶対時と相対時の表現は同じ「している」になります。

T3.6 まえ・あと・とき

A9章～A 11 章

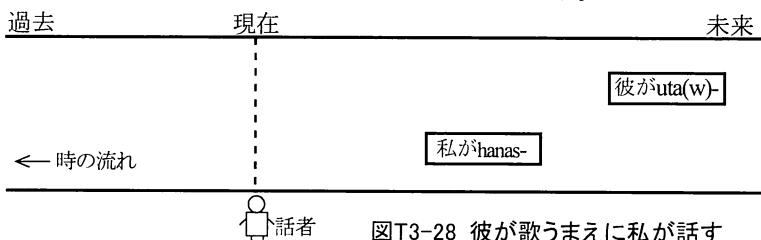
まえ(に)

[従属節] 主文

A9章, A 10 章

[彼が歌う]まえに私が話す。 この文について考えます。

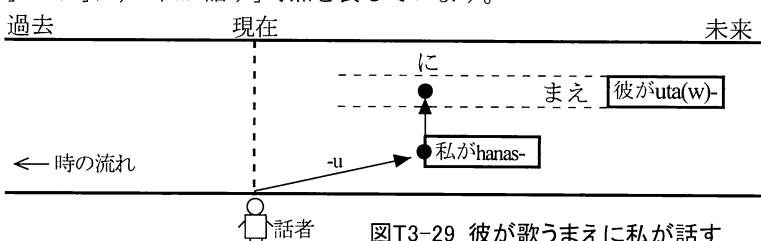
「彼が歌う」という従属節が「まえ」を修飾しています。「私が話す」が「彼が歌う」よりもまえに生じるので、時間関係はこの図のようになります。



図T3-28 彼が歌うまえに私が話す

「まえ」という名詞は「彼が歌う」よりもまえの時間領域を表しています。

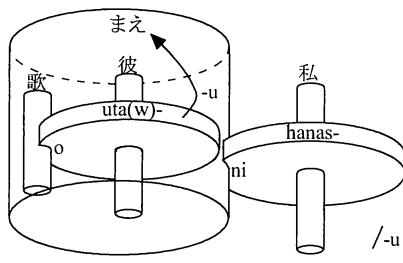
「まえに」の「に」は、「私が話す」時点を表しています。



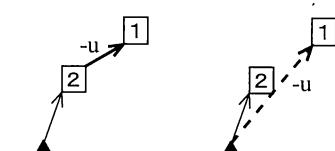
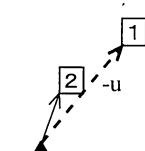
図T3-29 彼が歌うまえに私が話す

「まえに」の「に」は省略されることがあります、格関係は変化しません。

「歌う uta-u」の -u は相対時(下図T3-31)がふつうですが、絶対時(下図T3-32)の可能性もあります。



図T3-30 彼が歌うまえに私が話す

図T3-31
歌うまえに
相対時(G-2S)図T3-32
歌うまえに
絶対時(G-2Z)

問T3-13 「彼が歌うまえに私が話している。」を図示してください。

問T3-14 「彼が歌ったまえに私が話した。」という言い方について説明してください。

問T3-15 「雨が降るまえに家に着いた。」を図示してください。

あと(で)

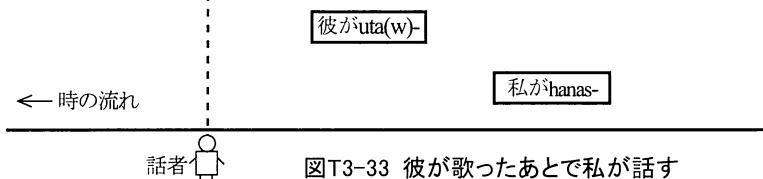
[従属節] 主文

A 10 章

[彼が歌った]あとで私が話す。この文について考えます。

「彼が歌った」という従属節が「あと」を修飾しています。「私が話す」が「彼が歌う」よりあとに生起するので、時間関係はこの図のようになります。

過去 現在 未来

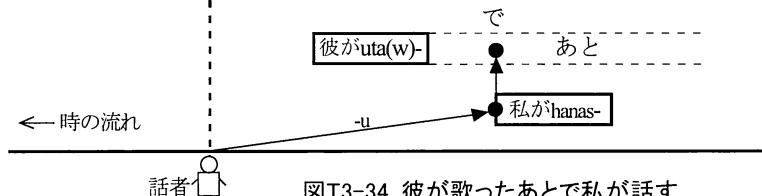


図T3-33 彼が歌ったあとで私が話す

「あと」という名詞は「彼が歌う」よりあとの時間領域を表しています。

「あとで」の「で」は、「私が話す」時点を表しています。

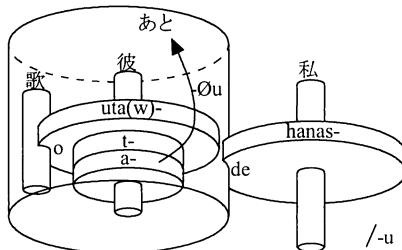
過去 現在 未来



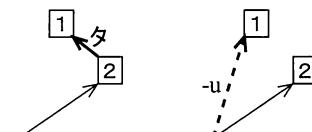
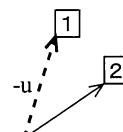
図T3-34 彼が歌ったあとで私が話す

「あとで」の「で」は省略されることがあります、格関係は変化しません。

「歌った utaw-i=t-Ø=a-Øu」の「た」は相対時(下図T3-36)です。絶対時(下図T3-37)の「-u」で表現すると「彼が歌うあとで私が話します」となりますが、日本語では相対時(歌ったあと)のほうがよく使われます。



図T3-35 彼が歌ったあとで私が話す

歌ったあとで
相対時(G-1S) 図T3-36歌うあとで
絶対時(G-1Z) 図T3-37

問T3-16 「彼が歌ったあとで私が話した。」を図示してください。

問T3-17 (難)「彼が歌うあとで私が話した。」について説明できますか。

問T3-18 「彼が歌ったあとで／に私が話した。」の「で／に」の違いは？

問T3-19 「従属節がル、主文がルのとき、従属節は絶対テンス」の説は正しい？

とき(に)

[従属節] 主文

[彼が歌う]ときに私が話す。この文について考えます。

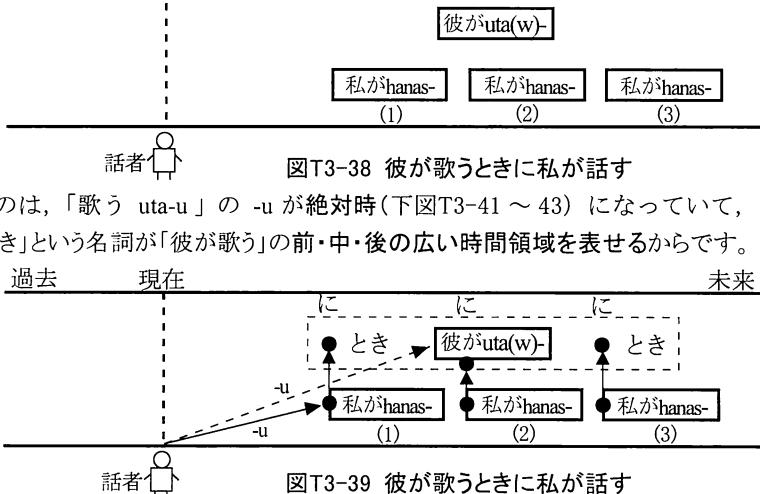
A 10 章, A 11 章

「彼が歌う」という従属節が「とき」を修飾していますが、「とき」は特別です。

★「私が話す」は「彼が歌う」よりまえにも、あとにも、また同時に生起します。

過去 現在

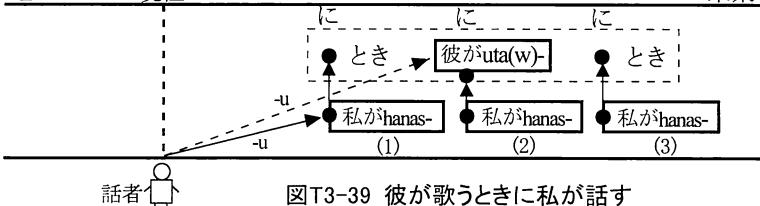
未来



特別なのは、「歌う uta-u」の -u が絶対時(下図T3-41～43)になっていて、また、「とき」という名詞が「彼が歌う」の前・中・後の広い時間領域を表せるからです。

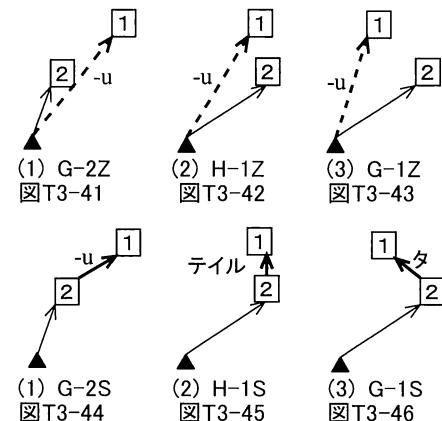
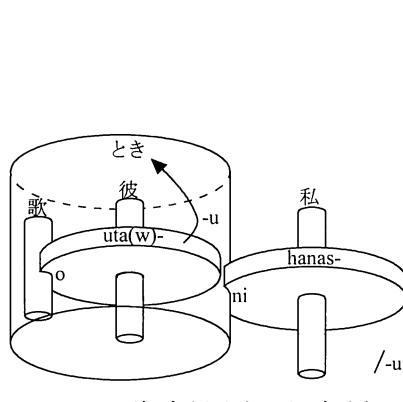
過去 現在

未来



もし、「歌う uta-u」の -u を相対時に変えて表現すると、こうなります。

- (1) 彼が歌うときに、私が話す。 (下図T3-44) (絶対時表現と同じ)
- (2) 彼が歌っているときに、私が話す。 (下図T3-45)
- (3) 彼が歌ったときに、私が話す。 (下図T3-46)



とき実例図

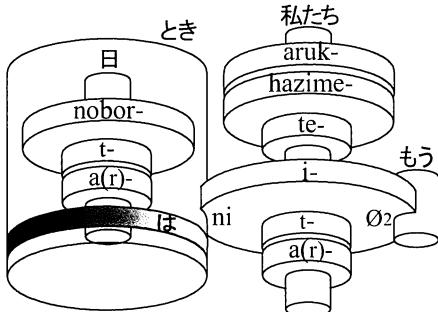
「とき」の実例を1つ、構造図と時間図で示します。

15章

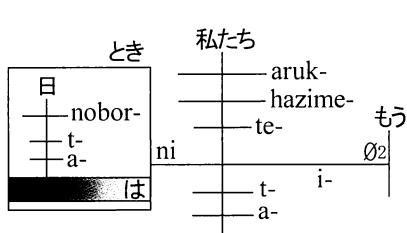
日が昇ったときには、もう歩き始めていた。

日-ga nobor-i=t-Øi=a-Øu とき-ni-wa

もう-Ø2 aruk-i=hazime-Øi=te-Øi=i-Øi=t-Øi=a-Øu



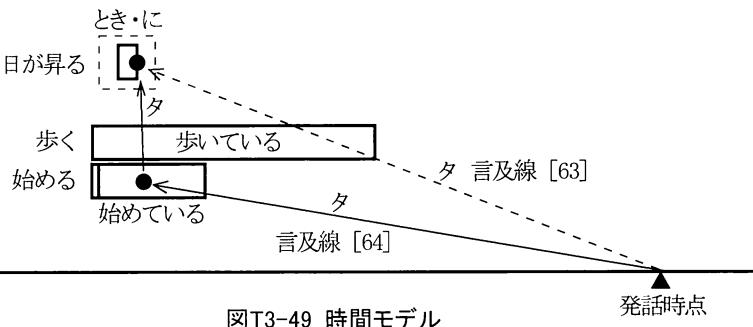
図T3-47 構造モデル



図T3-48 簡略構造モデル

過去

現在 未来



図T3-49 時間モデル

日が昇った ……相対時でも絶対時でもタになります。（図では実線と破線）
相はここでは「完了」として捉えていますが、「◎事象」として捉える
こともできます。

とき・に ……主文の言及点の位置が基準になります。

始めていた ……歩くことを始めた結果状態継続中で、歩くことが進行中です。

問T3-20 「次の映画を見るときには感想文を書きます。」を図示してください。

問T3-21 「庭掃除をしおわったときに、雨が降りだした。」を図示してください。

問T3-22 「北欧旅行をしたときに、この本を買った。」を図示してください。

T3.7 絶対時？ 相対時？

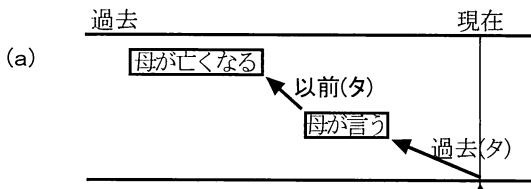
C11.2

次の(a)(b)はどちらもふつうの日本語ですね。

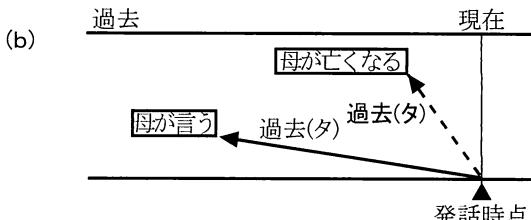
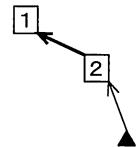
- (a) [亡くなった]母が夢でそう言った。
- (b) [亡くなった]母が親族会議でそう言った。

しかし、(a)は亡くなったあとの事象のようで、(b)は亡くなるまえの事象のようです。同じ「亡くなった母」なのになぜこのようになるのでしょうか。

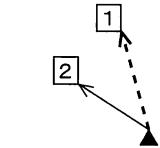
実は、(a)の「亡くなった」は相対時表現で、(b)の「亡くなった」は絶対時表現になっています。(ただし、aは絶対時表現でも同じになります。)



図T3-50 (a)亡くなった母が夢でそう言った



図T3-52 (b)亡くなった母が親族会議でそう言った



(b)を聞いたとき、最初は奇異に感じたかもしれません。日本語では相対時表現のほうが優先されるので、まず図T3-50,-51のように理解しようとするからです。この(b)を相対時表現にすると、「(翌年)亡くなる母が親族会議で…」になります。

次も同じで、ちょっと奇異に感じられるかもしれません、可能です。

〔地震で全壊した〕家に20年住んでいました。

相対時表現では「地震で全壊する家に」になります。「今回の」をつけるとよい。)

※日本語教育では、特に初級のうちは相対時表現のほうを正しいものとして教えます。それで日本語教師は上例(b)などは誤文だと思いがちです。

問T3-23 「その事故で助かった人はここで水を飲んだ。」を図示してください。

問T3-24 「その事故で死んだ人はここで水を飲んだ。」を図示してください。

問T3-25 「このビールはこんどサッカーを見たときに飲みます。」の図示。